

す。そこで、戦争中此の水雷艇を驅逐して、味方の艦隊を守護するものは

水雷驅逐艦

といつて、通例、二百五十噸から三百五十噸位の軍艦です。水雷艇を驅逐して撃沈しようとするのですから、速力も水雷艇以上で三十六哩も走ります。

三十六哩も走ります。

水雷母艦

といふは、水雷艇は小さくていろ

くの軍需品、石炭とか飲食物とかを積み込むことか出来ない所から、水雷艇に之等を供給する爲めに運送の用をなす船をいふのであります。

小學校の茶話會

毎年、附屬小學校では、卒業式が済んだ後で、一部、二部、三部の卒業生と、先生方が集つて、二階の講堂で茶話會を開くことになつて居ます。

今年も、三月廿八日の午前九時に卒業式が行はれましたから、其お晝から、茶話會を開きました。卒業の男女生から、いろ／＼面白／＼お話が出ました、覺えて居るだけ、三つ四つ記さ出して御覽に入れましょう。

まづ、こんなお話です、

田舎者と足袋屋

田舎者が、東京の足袋屋へ来て、足袋を注文しました。足袋屋の主人が「十文ですか、十一文ですか」と尋ねましたら「イー、田舎もんです」と答へました。

田舎者と汁粉

田舎者が、お汁粉屋へ飛び込んで「オイ、汁粉を下さい」といひましたから、汁粉屋の女が、「ハイ、御膳にしましよつか」と聞きましたら、「イーヤ、

汁粉だ」といひますから、夫では『田舎に致しませうか』と言ひましたら、「何だ、人を馬鹿にしてゐる、それでも、東京へは、度々出て來た事があるのだぞ」

大黒天と鼠

或晩、大黒様が御馳走をしようと思つて、ドル箱を明けて見た所が、お金がつた二錢五厘しかありませんでした。之では、とてもお魚を買うことは出來ないと思つて、仕方なしに大根を買つて來て食べました。そこで、つく／＼考へて、まあ、大黒天ともある者が、いかに貧乏すればとて、大根を食べなければならぬ様にもなつたかと思つて歎いて居りますと、鼠が、天井から申しますには「夫は致し方がありませんまいよ、世間では、あなたのを、ダイコクと申しますから」

ハイカラと帽子

大變なハイカラの男が有りまして、どうしたら、頭の髪を際立つて分けることが出來ようかと、友人に尋ねましたら「夫は、漆を塗ればよい」と教へられましたので、すぐ漆を買に行きましたか、間違つて、膠を買つて來ました。さて、夫を熔かして、熱いのを辛棒して頭に塗りつけて分けまして、さて、帽子を被つて出かけました。所が、途中で友達に遭ひまして、其友達は帽子を取つて、お辭義をしましたから、此方も帽を取らうとしたが、チャンと膠でクツツイて仕舞つて、どうしても取る事が出來ないから、仕方なしに帽子を冠つた儘でお辭義をしました所が、其友達は「大變腹を立て、此奴、生意氣な失敬な男だ」と思つて、側へ來て、帽子に手をかけて、無理に脱かせよう

としました。そこで、膠で固着して居るのを無理に脱がせたもんですから、帽子の皮だけが脱れて、中の方は、矢張頭について残つて居ましたから、『オヤ〜』といつて諦めましたと云ふ。

なさけない

お婆さんが、川へ菜と酒とを洗ひに行きました所が、大水が出て来て、二つとも流されましたので、ナチケナイと言つて泣きました。

いそつぶ物語

(五十五) 百姓の親子

一人の百姓が死際になりました、どうか子供等にも自分と同じ様に精出して畑を耕作す様にさせたいものだと思へまして、さて、大勢の子供を枕元に呼びよせて次の様に咄しました。

「已は、お前方には誰にも知らさないで、家の畑の中へ、非常な寶物を埋めて置いたから、お前方誰でも掘り出したものに、形見として上げよう」と云ふ言置きをして死にました。其處で、子供等は、吾こそ其寶物を掘り出さうといつて、各自、鍬や鋤を以て来て、丁寧に畑を、あちらこちらと掘り返して見ましたが、何一つ寶物らしいものが出ませんでした。然しながら、其お蔭で、其年の作物は非常な豊作でありましたと云ふ。

(五十六) 雞と鷲

二羽の雄雞が、或日、畑で以て烈しく蹴合を始めました。そして、終に一羽の雞が勝つて、一羽の雞は小さくなつて、片隅へ隠れました。そうすると、此勝利者は、高い垣根へ飛び上つて、兩方の羽をたゝいて、力一杯に勇ましく凱歌ひました。